

# 魚

# のゆりかご水田ってなあに？

## 田んぼの変化

水に恵まれた琵琶湖岸の田んぼですが、長雨で洪水がおきると収穫が台無しになることもありました。少しずつ田んぼの改良が進み、水管理しやすくなり、機械での農作業が始まりました。移動手段も田舟から自動車に変わっていきました。

その反面、産卵のために田んぼに上がってきた魚が田んぼに入れなくなりました。同じ頃、田んぼと共に、琵琶湖や湖岸の環境も変わり、琵琶湖の魚が減っていったのです。



## 誕生！魚のゆりかご水田

さまざまな調査や研究が行われ、田んぼは琵琶湖の魚にとってなくてはならない場所だったことがわかってきました。

もう一度、魚が泳ぐ田んぼを復活させよう！ が合い言葉になりました。

そうして、魚が上がりやすい魚道の



研究が始まり、排水路や田んぼへの入り口に魚道を設置する方法を開発。「魚のゆりかご水田プロジェクト」の誕生です。

## 魚のゆりかご水田は「五方よし」

田んぼで生まれた魚の赤ちゃんは、エサになるプランクトンがいっぱいの田んぼの中ですくすく育ちます。田んぼには、天敵のブラックバスやブルーギル等の外来魚が入ってこられません。農家は生きものを大切にするため、農薬や肥料を控えてお米を育て、生きものを育む田んぼのお米「魚のゆりかご水田米」として販売します。生きもの観察も行われ、琵琶湖と田んぼの関係を学べるようになりました。地域がにぎわい、子ども、生きもの、琵琶湖、農家によい「五方よし」の取り組みです。